

急に遠隔、って言われても……。

それでも、遠隔授業は待ったなしにはじまった。あの時は本当に大変だった。いまは対面授業も再開されたけど、あれがきっかけで、講義資料の配布も、課題の提出も、Teamsなどのアプリとインターネットの活用が基本になった。

僕はパソコンが苦手だ。情報の授業もギリギリ、ついていくのがやっとだった。誰か助けて、と頭を抱えていたところ、とある噂を耳にした。

図書館一階のホワイトボードにZ・Y・Xと書き込むと、どこからともなく現れ、何でも相談にのってくれる伝説の人物がいるらしい。

その人物は、ドクターQと呼ばれているとのこと。しかし、ドクターQが誰なのか、知る者は一人もいないという。

いまどぎ、そんな伝説みたいな話、信じる学生なんているわけない。だけど、いまの僕は、時代に取り残されはじめている。背に腹はかえられない。

学生が少なくなったところを見計らい、僕はホワイトボードにZ・Y・Xと書いてみることにした。

## 特集 3

今こそ、  
使い始めるチャンス!

# 情報機器とアプリ

伝説のドクターQとの出会いが  
とある学生の学び方を変えた!

かもしれない物語



そのときは突然訪れた。教室の片隅でパソコンと格闘しながら課題をやっていたら、僕は不意に肩を叩かれたのだ。

「振り向かないで。そのままそのまま」

「何か、助けを必要としているのかな」

男性とも女性ともとれない声だった。あまりに急だったので、僕は硬直した。その言葉に、うなずくことしかできなかった。

僕は、緊張しながらも聞いてみた。

「もしかして、伝説の……、ドクターQですか」

すると、返事がかえってきた。

「わたしのことを、そう呼ぶ人もいるらしいね」

僕は、思い切って話を切り出した。

「ITとか苦手で……」

返事がかえってきた。

「そうか、そうだよ。大学じゃ、たいして教えてくれないし、苦手な先生もたくさんいるから……」

「でも、考え方次第だよ。ちょっと詳しくなったら、その点においては、あなたがもう先生になれちゃうわけだからね」

ドクターQの言葉は、僕をすこし安心させた。僕は思い切って、いろいろ質問してみることにした。

「ゼミでグループワークに取り組みように言われているのですが、なかなかみんなが集まらないんです。ゼミの先生はグループワークも遠隔でやったら？、っておっしゃっていたんですけど……。どうしたらいいですか」

ドクターQの返事はこうだ。

「先生の言うとおり、この機会にどんどんやってみようがよいよ。この先、それが当たり前になるかもしれないから」

「遠隔授業のとき、Zoom Meetingsを使ったでしょ。あれは、条件付きだけど無料で使えるから、あなたも会議を開催できるはずだよ」

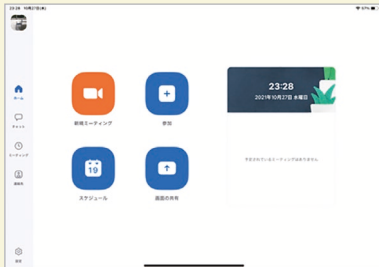
その後、ドクターQは、Zoom Meetingsの使い方方を詳しく教えてくれた。教わってみれば、意外と簡単だった。

一通り教わってから、僕はこう言った。

「今度、僕がホストになって会議を開



ドクターQが教えてくれたアプリはこちら



Zoom Meetings (ズーム社)

ビデオ会議でグループワークをやりたいなら、Zoom Meetingsを活用しよう。人数や時間の制限はあるけど、基本は無料で利用可能。チャットの機能もついていて便利。

催すから、みんなが遠隔のグループワークをしようよ、って言ってみます」

すこしだけ、心が軽くなったような気がした。

すると、こんどはドクターQの方から語りかけてきてくれた。

「対面授業も再開されたけど、様子を見てみると、以前とはちょっと教室の雰囲気が変わってきているよ」

「Windowsじゃなくて、Macintosh、つまりMacを使っている学生も増えたかな。これからは、特定メーカーのシステムやアプリに依存してばかりいられない時代になると思うよ」

ドクターQってやっぱり先生なのか、と僕は思った。思わず振り返りそうになったけど、そのときはなぜか振り返らず、僕はこうつぶやいた。

「そうなんですか……」

ドクターQは、続けざまにこう言った。

「いずれにしても、情報機器は持ち運びやすいように、軽いものを選んでほうがいいと思うな」

「たとえば、ノートパソコンは大きい画面のものを選びたくなるけど、そういうのは重いから大抵持ち運ばなくなっちゃうよ。それよりは、性能にこだわった方がいい。遠隔授業を受けながらWordやExcelを使うと、パワー不足を感じるかもしれないから」

確かに、僕が一年生のときに買ったのは、画面の大きいノートパソコンだ。そのほうが作業しやすいと思っただし、大学にはデスクトップパソコンが、普段はそれを使えばいいと判断したんだ。



この学生がもっと早く知りたかった情報はこちら



本学の学部生ならびに大学院生は Office365 を無料で利用可能。

だから、自分のパソコンはたいてい家に置きっぱなしになっている。そういえば、遠隔授業の最中に画面がカクカクってなったことがあった。ちなみに、うちの学生なら Word や Excel などを無料でインストールしてしばらく経ってからだ。もっと早く気づいていたら、そのぶん性能のいいノートパソコンを選んでいたかも知れない。

ドクターQはこうも言った。

「あと、三、四年生中、心の授業では、講義資料をプリントアウトしてきている学生が多いけど、一、二年生が多い授業ではタブレットとペンを使っている学生が一定数いるような気がするよ」

僕はこう聞いてみた。

「パソコンも苦手なのに、タブレットって難しくありませんか」

ドクターQの返事はこうだった。

「でも、スマホは使っているんでしょ。スマホを使うときにマニュアルなんて見たかい」

「パソコンもタブレットも、最低限の基本を学ぶ必要があるけど、あとはいろいろ試していけばいいんだよ。特に、タブレットはスマホみたいに、直感で操作していけるよ」

たしかにそうだ。スマホの使い方なんて、誰にも教わっていない。だけど、僕にもちゃんと使えている。

「お金の問題はあるかもしれないけど、将来の自分への投資だと思って、バイト代を貯めて購入を検討してみてもいいよ」

「タブレットなら、そんなに高価じゃないものもあるよ。もちろん、余裕が

あれば2 in 1と言って、パソコンにもタブレットにもなるやつもいいかもね」

僕はさかさず聞いてみた。

「タブレットって、どんなことに使ったらいいんですか」

ドクターQは教えてくれた。

👍 ドクターQが教えてくれたアプリはこちら



**Microsoft Lens**  
(マイクロソフト社)





**Adobe Scan**  
(アドビ社)



紙の書類をPDFで管理したいなら、Microsoft Lensか、Adobe Scanを活用しよう！スマホやタブレットのカメラで書類を撮影、枠を整えるだけ。

「そうだなあ。いまはまだ、講義資料をプリントアウトして配ってくれる先生もいるよね。それに、過去にもらったものも、いっぱい持っているでしょ」

「タブレットがあれば、配布された講義資料をデジタル化して管理したり、紙のノートの代わりとして使ったりできるよ」

確かに、授業で配布される講義資料は、バラバラになりやすい。試験勉強で使いたいときに限って、ここにたかかわらなくなり、困ってしまうことも少なくない。

ドクターQは、二つのアプリを教えてください。

「Microsoft Lensか、Adobe Scanというアプリを使うといいよ。配布プリントをカメラで撮影すれば、スキャンしてPDFとして保管できるから」

たしかにそれは便利かもしれない。ちょっと大変そうだけど、これなら教科書だってスキャンできちゃうじゃん、と僕は思った。

分厚い教科書を何冊も持ち運ぶより、タブレット一台を持ち歩いたほうが楽に決まっている。何より、そっちの方がカッコいい。これは友だちにも教えてあげよう、と僕は思った。

👍 ドクターQが教えてくれたクラウドサービスはこちら



**OneDrive**  
(マイクロソフト社)



**Google Drive**  
(アルファベット社)



**iCloud**  
(アップル社)

ファイルの破損や忘れを防ぐため、ファイル保存は無料のオンラインストレージに任せよう！容量の制限はあるものの無料の範囲で十分。用途によって使い分けるのもあり！

「ちなみに、ファイルの保存管理はクラウドサービスを使うといいよ」

きつと、僕の頭の上には、なマークがついていたんだと思う。ドクターQはこう付け加えた。

「スマホを持つているのなら、写真とかはネット上に保存しているでしょ。あれだよ、あれ。いまは、One Driveのほか、Google Driveとか、iCloudとか、容量の制限はあるけど、無料で使えるオンラインストレージがたくさん提供されているよ」

「ファイルをそこに保存しておけば、ネット環境さえあるところなら、いつでも取り出せるから便利だよ。まさか、まだデータをUSBに保存していたりしないよね。ファイル破損などのトラブルを考えると、これからはオンラインストレージを使いこなさない」と

たしかにそうだ。以前も、課題提出直前にファイルがこわれてしまい、大変な目にあったことがある。いつの間にか僕の右手は、パソコンに挿し込んであったUSBを覆うようにしていた。まさに、あの、みんなが持っているやつを挿していたんだ。

僕は質問を続けた。

「WordやExcelって、タブレットでも使えるんですか」

ドクターQは即答した。

「オ・フ・コ・ス」

そういう言い方する先生、たまにいるよね、と僕は思った。いや、もしか

したらドクターQは一世風靡したあの世代なのかも知れない。

ドクターQはこう教えてくれた。

「ただし、使用条件があるから、タブレットを購入する前に確認が必要かな。それから、タブレット用のWordやExcelは、まだ使いにくい部分があるのも事実だよ」

「でも、外出先でちょっと文章を書いたり、簡単な計算をしたりするくらいなら、全然使えちゃうから心配しないで」

「あと、Googleはオンラインで使えるオフィスアプリを提供して

いるし、Appieも独自のオフィスアプリを用意しているよ。これらは、いずれも無料で使えるよ」

僕は追加で質問をした。

「ほかにも、おすすめのアプリアってありますか」

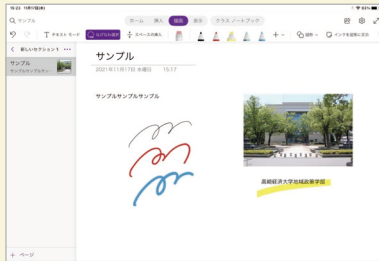
ドクターQはこう言った。

「あ・る・よ」

それも、聞いたことのあるセリフだった。テレビドラマで見たあの人は、今や、よくバスに乗っている。

ドクターQの話の続きはこうだ。

👉 ドクターQが教えてくれたアプリはこちら



**OneNote**  
(マイクロソフト社)



**GoodNotes 5** ※iPad版のみ  
(タイムベース・テクノロジー社)

タブレットと専用のペンがあれば、手書きノートの代わりになるアプリ。もちろん、キーボード入力も、画像挿入も可能。文字や画像は、あとから移動させたり拡大縮小したりできちゃう。

「慣れるまでに時間がかかるかもしれないけど、紙と鉛筆をやめて、これからは授業ノートもタブレットでとるっていうのはどうか」

「先日、タブレットにペンで書き込んでいる学生がいたから、聞いてみたんだよね。そしたら、ひとりはOneNote、もうひとりはGoodNotesを使っている、って言うてたよ」

「OneNoteは無料だよ。キーボード入力が基本だけど、手書き入力もだいたいよくできてきているかな。GoodNotesは有料だけど、そんなに高価じゃないよ。ノートとしても優れているけど、教科書や論文も保存しておいて、蛍光ペンや赤ペンで線も引けちゃうからとても便利なんだ」

「他にもいろいろなノートアプリがあるみたいだから、目的に合わせて、自分が使いやすいものを選ぶといいよ」

ドクターQは、何でも知っている。すごい！もって聞きたかったけど、ドクターQはいつの間にかいなくなっていた。

バイト代が入ったので、ぼくは早速タブレットを購入した。もちろん、ドクターQに教えてもらったアプリも入れた。

まずは、いままでの講義資料をカメラでスキャンしまくった。まだよくわからないけど、なんだか最先端を行っているような気がしてきたぞ。不思議と自信みたいなものも湧いてきた。

そして、まだまだ使いこなせてはいないけど、いまや、僕も授業にタブレットを持ち込んでいる。付属のペンを使い、講義資料に直接、メモを書き込んでみると、不思議とヤル気が出てくる。

遠隔授業のときは、パソコンで動画をみながらタブレットでメモをとっている。プライベートな時間には、映画や雑誌なんかをみるのにも使えて便利だ。もうパソコンの起動なんてしたくない。YouTubeだって、ほとんどタブレットで視聴している。

そういえば、Microsoft LensとAdobe Scanを教えたあげた友だちが、こう言っていたっけ。

「教育実習に行くんで、授業用の配布資料を作ったんさー。で、教科書の図表をスキャンして配布資料に貼り付けたの。そしたら、わかりやすい！、って先生に褒められたんさー」

でも、最近また、ちょっと困ったことがある。

ゼミのグループワーク、こっちは思ったほど進んでないんだ。時々ひらく遠隔グループワークだけじゃ、みんなとのコミュニケーションが深まらないからだろう。LINEの連絡先を交換しようと思ったけど、あまり乗り気じゃない人もいるみたい……。

気がつく、僕は図書館のホワイトボードの前に立っていた。周囲が気になっただけど、もう一度、Z.Y.X.って書くことにした。

ふたたび、そのときは突然訪れた。今度は、大学も関わる街なかなかのカフェで、ひとり、オレンジジュースを飲んでいるときだった。

「やあ、久しぶりだね。どうかしたかな」

ちょうどジュースを口に入れたところだったので、吹き出してタブレットを汚しそうになった。どうやらあの人は僕と背中合わせで座っているらしい。



👉 ドクターQが教えてくれたアプリはこちら



**Slack (スラック・テクノロジー社)**

メンバーや情報、ツールをまとめるコラボレーションハブ。いまや、ビジネスに不可欠なツールとなった Slack は、ゼミやグループワークでも活躍しよう！

僕はこう言った。

「ゼミのグループワークがいまいちうまく進んでないんです。遠隔でときどき話し合ったりするのですが、コミュニケーション不足みたいです。何か、いい方法をご存知ですか」

ドクターQの回答は、あの有名なゼリフに似ていた。

「わ・た・し、何・でも・知・っ・て・い・る・の・で・」

そして、こんなアプリを紹介してくれた。

「それなら、Slackを導入してはどうかな。無料の範囲で十分使えるよ」

「対話形式になっているから文字で会話できるし、サイズの小さいファイルなら貼り付けて共有できるから、とても便利だよ」

「プロジェクトを効率的に達成するために、最近はいろんな企業がSlackを導入しているみたい。その練習にもなるし、いまから使っておくのはいんじゃないかな。ある大学は全体としてSlackの導入を決めた、というニュースも見たことがあるよ」

ドクターQは天才だ。僕はこう答えた。

「いま、タブレットあるんで、ちょっと調べてみますね」

そう言った自分に、僕自身すこし驚いた。この間まで、IT苦手……、って言っていたのに。

ドクターQはさらにこう続けた。

「Slackは、パソコンやタブレットだけでなく、スマホにも入れておくといいよ。LINEみたいに使えて、とても便利だよ。ダイレクトメッ

ページの機能を使えば、個別チャットもできるしね」

「あと、Slackを導入したら、チームごとにチャンネルをつくるのを忘れずに。メンバー同士のやりとりは、チャンネルで内容を整理しておこうね。それから、雑談チャンネルを作るのも忘れちゃダメだよ。たわいもない会話の中に、アイデアが転がっていたりするんだから」

なるほど、インターネットで調べたら、これもおもしろそうなアプリだと思った。

「そのほかに、おすすめのアプリってありますか」

僕は質問を続けたが、ドクターQの返事はこうだった。

「もうあなたは、情報機器やアプリに苦手意識がなくなってきたよな。そうやって、人に頼りっぱなしはよくないよ」

「いまや、インターネットを使って、自分でどんどん勉強していける時代なんだ。むしろ、大学生活に役立つ情報をみつけたら、あなたから発信してほしいな。そうしたら、学生主導でもっと大学が活気づくと思うよ」

僕は、思わず振り返った。

……が、そこには誰もいなかった。からっぽのコーヒーカップがひとつ、テーブルの上に残されているだけだった。



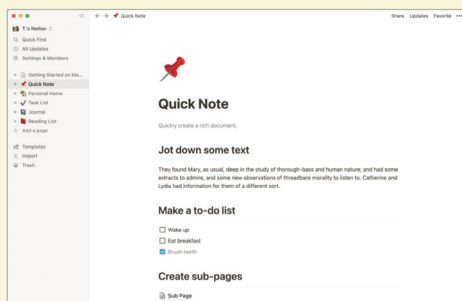
この日以降、ホワイトボードにZ・Y・Xと書き込んでも、ドクターQは現れなくなった。きっと僕が、自分一人でいろいろできるようになったからだ。

いまの僕は、自分で見つけた便利そうなアプリをタブレットに入れて活用している。Notionはその代表格だ。

**Notion**はいろいろな使い方ができる。メモをとることも、ToDoリストをつくることも、読書記録をつけることもできるんだ。自分自身を成長させる上で、欠かせないアイテムになってきている。

残念なのは、Notionを教えてくれたのが、どこかの大学の学生が作ったYouTube動画だったってこと。僕もいつか、情報発信する側に回りたい、と思いはじめています。

学生自身が見つけたアプリはこちら



Notion (ノーションラボ社)

Notionなら、バラバラになりがちな情報をひとつのワークスペース内に整理できる。

紙の手帳もやめた。スケジュールはクラウドサービスを使って管理している。スマホとタブレットを常に同期させているから、手帳を忘れたり紛失しても心配はいらない。

就職希望先の担当者の前でスマホをいじるのは失礼だけど、タブレットをノートや手帳代わりに使うのは大丈夫だろう。みんなより情報機器とアプリに強いところを見せて、担当者に自分をアピールしようと思っている。

それにしても、ドクターQって一体誰だったのだろう。きっと、両親が話していた昔のヒーローアニメのように、誰も知らない、知られちゃいけないんだ。

僕は、自分を納得させるために、そう思うことにした。ブラックコーヒーの苦さを味わいながら……。

でも、いまの僕は、周囲のみんなより一歩先を行っていると自負している。自信もすこくついてきた。もうしばらくすると就職活動がはじまるけど、そのときも情報機器とアプリを有効活用するつもりだ。

メールは、スマホでもタブレットでもチェックできるようにしてある。

この物語はフィクションです。ただし、本学学生の情報機器・アプリの活用実態・成果については、ドクターQの観察や取材にもとづくものが含まれています。

なお、掲載情報は本原稿作成時のものであること、情報機器やアプリの導入は各自の責任で行うべきものであることに注意してください。